

新聞記者と 小説家の間で

はざま

小説家 久間 十義

2019年7月に本の寺子屋の講師を務め、2021年に亡くなった外岡秀俊氏への追悼の意を込めた講演会。外岡氏は1976年、東大在学中に「北帰行」でデビューした。卒業後、小説家になるものと期待されたが、翌年、朝日新聞社に入社。結局は記者・小説家の二足の草鞋を履くことになった。その兼ね合いを含めて、彼の生涯を辿ってゆく。

信州しおじり

本の寺子屋 Navigator 長田 洋一 講演会

2023/12/10(日)
14:00 - 16:00 開場13:30

塩尻市市民交流センター
(えんぱーく) イベントホール

定員 / 50人(先着順)

参加費 / 無料

申し込み

申込開始 : 11月5日(日)

本館総合カウンター、電話 (0263-53-3365)、メールのいずれか。メールの場合は次の内容をお送りください。

- 宛先 tosho@city.shiojiri.lg.jp
件名 「12/10 本の寺子屋申込」
本文 1 参加者全員の氏名(フリガナ)
2 代表者電話番号
3 お住まいの地区
4 この講演会を知ったきっかけ



久間 十義(ひさま じゅうぎ)

1953(昭和28)年、北海道生まれ。小説家。札幌南高校から早稲田大学第一文学部卒。1987年『マネーゲーム』で文藝賞佳作に入選しデビュー。1990年に『世紀末鯨鯨記』で三島由紀夫賞。著者に『刑事たちの夏』『限界病院』など。「本の寺子屋」の講演でとりあげる外岡秀俊氏は、高校時代の同級生。亡くなる直前まで交友があった。外岡秀俊氏は2011年春に朝日新聞社を辞め、以後札幌を拠点に活躍をした。この時期に彼は同じく高校時代の友人・澤田展人氏が主宰する個人芸誌に精力的に寄稿しているが、それらを中心にまとめた遺稿集「借りた時間、借りた場所」の編集にも関わっている。